プログラムタイマー（PA-T300）
設定支援ソフト取扱説明書

VER1.20R00

日本ビクター株式会社

もくじ

1 概要

本説明書は、プログラムタイマー（PA-T300）の設定支援アプリケーションの仕様について説明するものです。

1-1.プログラムタイマー設定支援アプリケーション概要

・ プログラムタイマー（PA-T300）のシステム設定及びプログラム設定を行うための支援アプリケーションです。
・ 本アプリケーションは、システムデータの設定から各パターンのプログラム設定までを、わかりやすいインターフェイスで容易に実現することができます。

Memo:
・本アプリケーションはプログラムタイマー PA-T300の設定を支援するものです。
・各機能の詳細は、プログラムタイマー PA-T300付属の取扱説明書をご覧ください。

1-2 動作環境について

・	パソコン	IBM PC-AT 互換機（DOS/Vマシン）
・	OS	Microsoft Windows 98SE/NT4.0SP6/2000SP2/XP
・	CPU	Pentium200 MHz以上推奨
・	メモリ	64MB以上推奨
・	ハードディスク	100MB以上の空き領域
・	モニター	解像度：800×600以上
・	カラー	16bit High Color (65536色)以上推奨

1-3.ファイル管理の考え方

1-3-1.ファイルの種類

・支援アプリケーションにおいて PCが管理するファイルとして、次のような構成となっています。

ファイル	概要	管理装置
タイマーバックアップファイル (***.TBF)	PA-T300 のユニットの設定データおよびプログラムデータ（エラーチェックが完了したもの）	PA-T300および支援アプリケーション起動 PC(HD など)
タイマーバックアップテンポラリファイル (***.TBT)	PA-T300 のユニットの設定データおよびプログラムデータ（エラーチェックが完了していないもの）	支援アプリケーション起動 PC(HDなど)
動作設定用 iniファイル	システムの動作環境を定義する設定データ	支援アプリケーション起動 PC(HDなど)
データテキストファイル (***.TXT)	データテキスト出力用ファイル	支援アプリケーション起動 PC(HDなど)
ログファイル (***.LOG)	アプリケーションの動作ログデータ	支援アプリケーション起動 PC(HDなど)

1-3-2.フォルダ構成

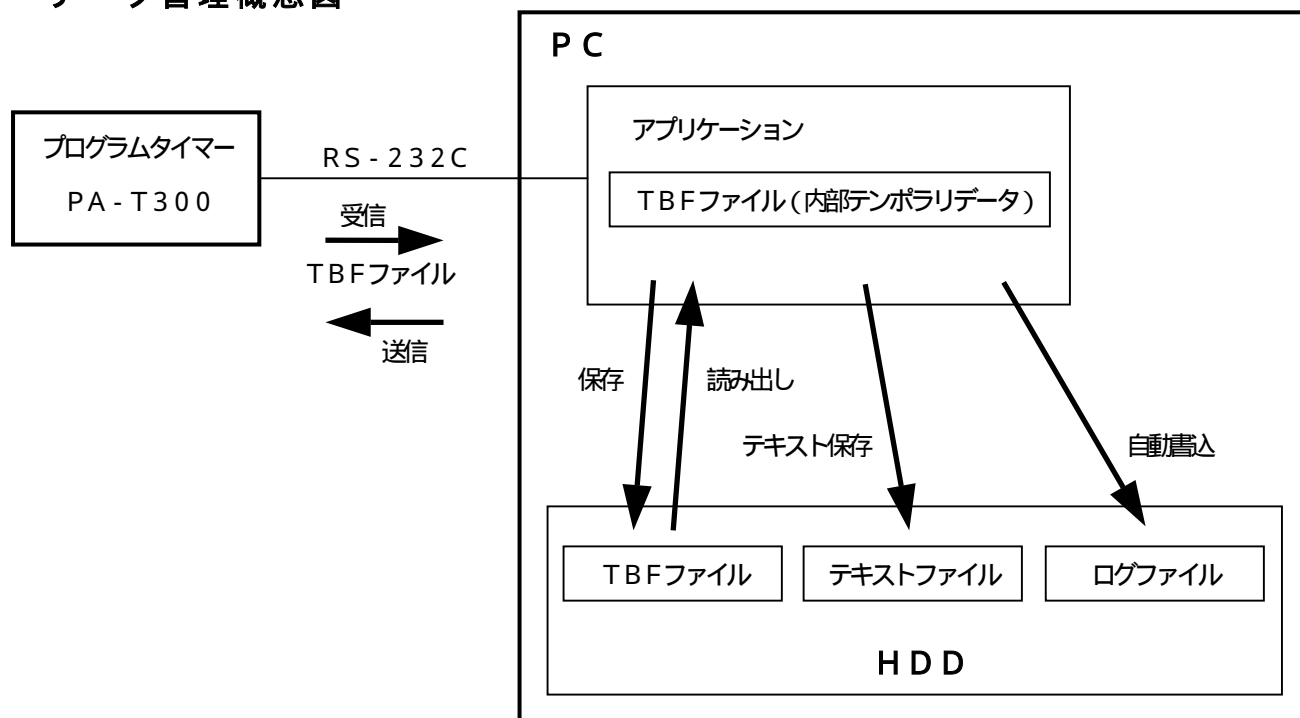
フォルダの構成は下記の通りです。

```
<ｲﾝｽﾄｰﾙﾌｫﾙﾀﾞ>---\DATA\          TBF ﾌｧｲﾙ保存用 ﾌｫﾙﾀﾞ
                 | \TEXT\        ﾃｷｽﾄﾌｧｲﾙ保存用 ﾌｫﾙﾀﾞ
                 | \LOG\         ﾛｸﾞﾌｧｲﾙ保存用 ﾌｫﾙﾀﾞ
```

Memo:
ログファイル作成時、2003年ならば ” S2003” というフォルダが自動作成され、その中にログファイル (Dmmdd.LOG mmは月、ddは日)が保存されます。

例) 10月 20日ならば D1020.LOG

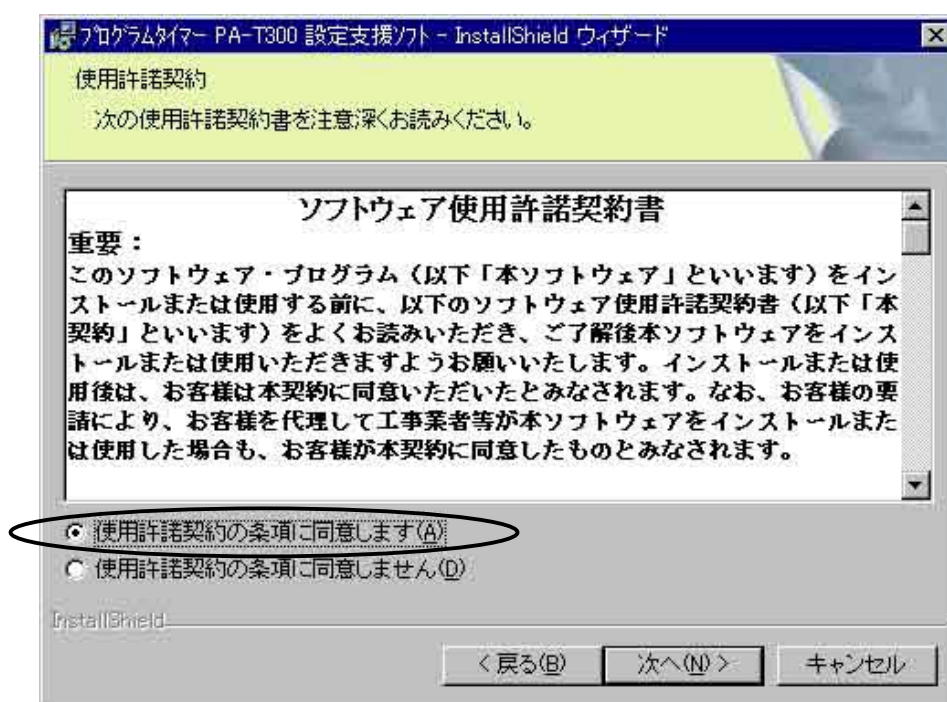
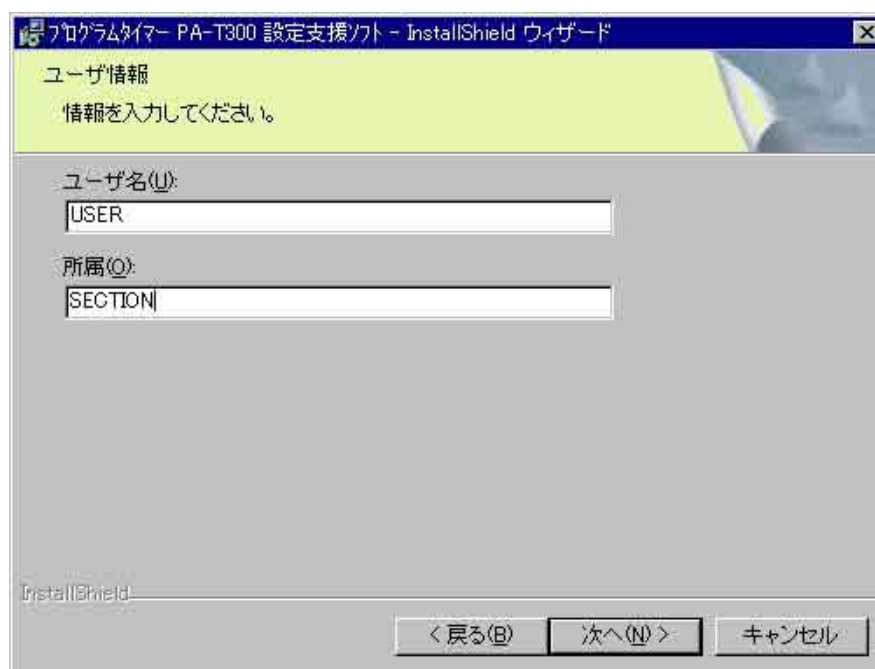
1-3-3.データ概念図

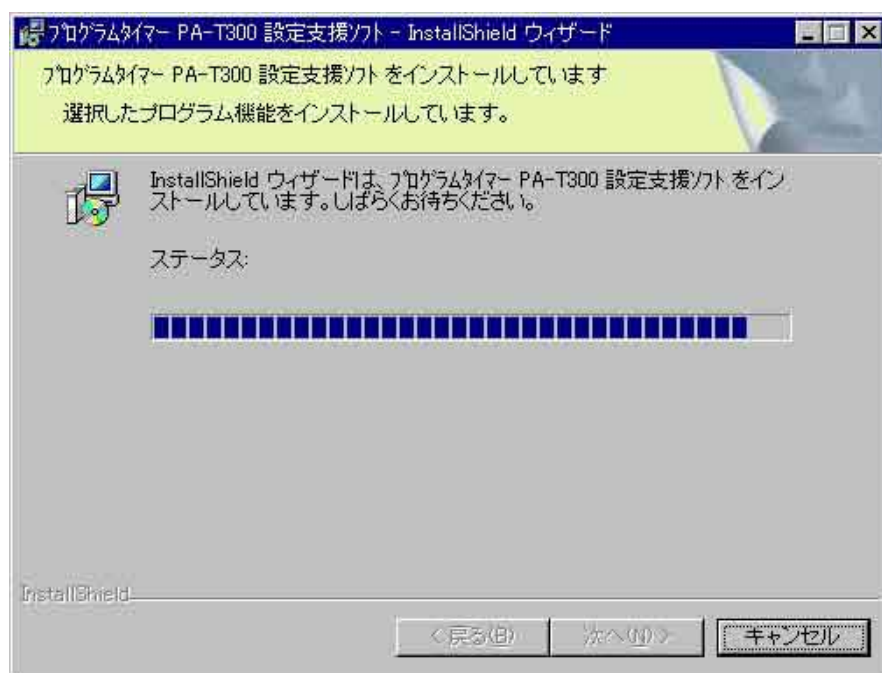
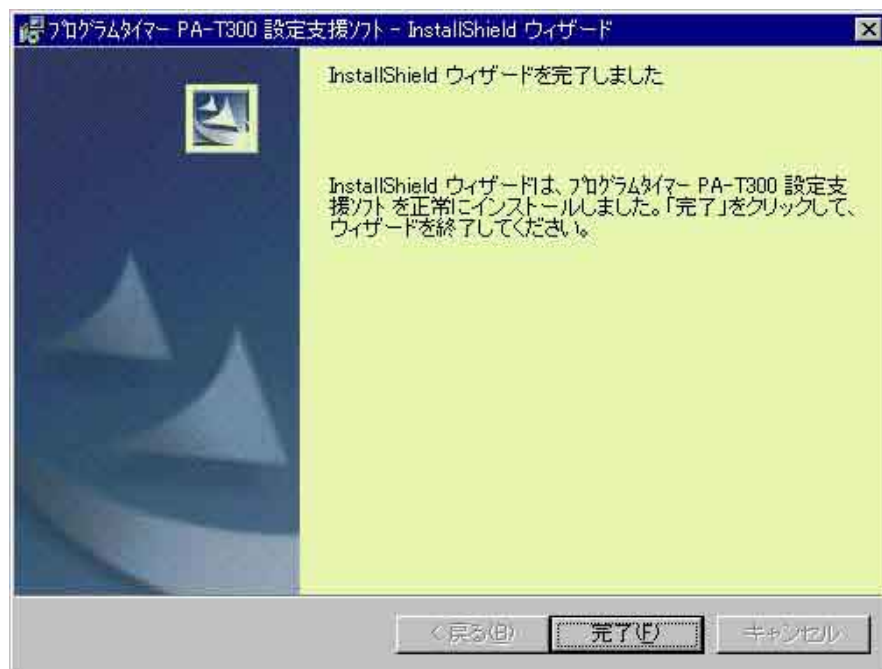
データ管理概念図
ＰＣ
プログラムタイマー
PA−T300
RS−232C
受信
TBFファイル
送信
アプリケーション
TBFファイル（内部テンポラリデータ）
保存
読み出し
テキスト保存
自動書込
TBFファイル
テキストファイル
ログファイル
HDD

2.アプリケーションのインストールとアンインストール

2-1.インストール

1）ダウンロードしたファイルを任意のフォルダにおき、ダブルクリックして下さい。
自己解凍形式ですので、フォルダ内にファイルが解凍されます。

2） setup.exeをダブルクリックして下さい。

3）使用許諾契約の文書が表示されます。内容をよくお読みの上、同意される場合
「使用許諾契約の条項に同意します」にチェックを入れ、「次へ (Y)」をクリックして下さい。

4）「ユーザー情報」を入力し、「次へ (N)」をクリックしてください。

5）インストール先のフォルダ」画面が表示されます。「次へ (N)」ボタンをクリックしてください。
インストール先のフォルダを変更するには「変更 (C)」ボタンをクリックし、任意のフォルダを選択してください。

6）インストールが開始されます。インストール中は下記のような画面が表示されます。

7）インストールが完了すると、下記画面が表示されます。
「完了 (E)」ボタンをクリックして本画面を閉じてください。
これでインストールは完了です。

2-2.アンインストール

アンインストールは次の手順で行ってください。

マイコンピュータ
↓
コントロールパネル
↓
アプリケーションの追加と削除
↓
「プログラムタイマー（PA-T300）設定支援ソフト」を選択
↓
「削除（R）」ボタンをクリック
↓
確認画面で「はい (Y)」をクリック

ご注意：
アンインストールを行ってもデータは消去されません。データを削除したい場合にはエクスプローラー等でアプリケーションのインストールフォルダを削除してください。

3.起動と終了

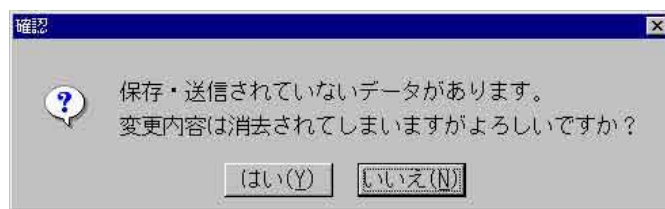
3-1. 本アプリケーションの起動

・ 下記アイコンをダブルクリックするか、Windowsの [プログラム]→ [PA-T300設定支援ソフト]を選択することで起動できます。

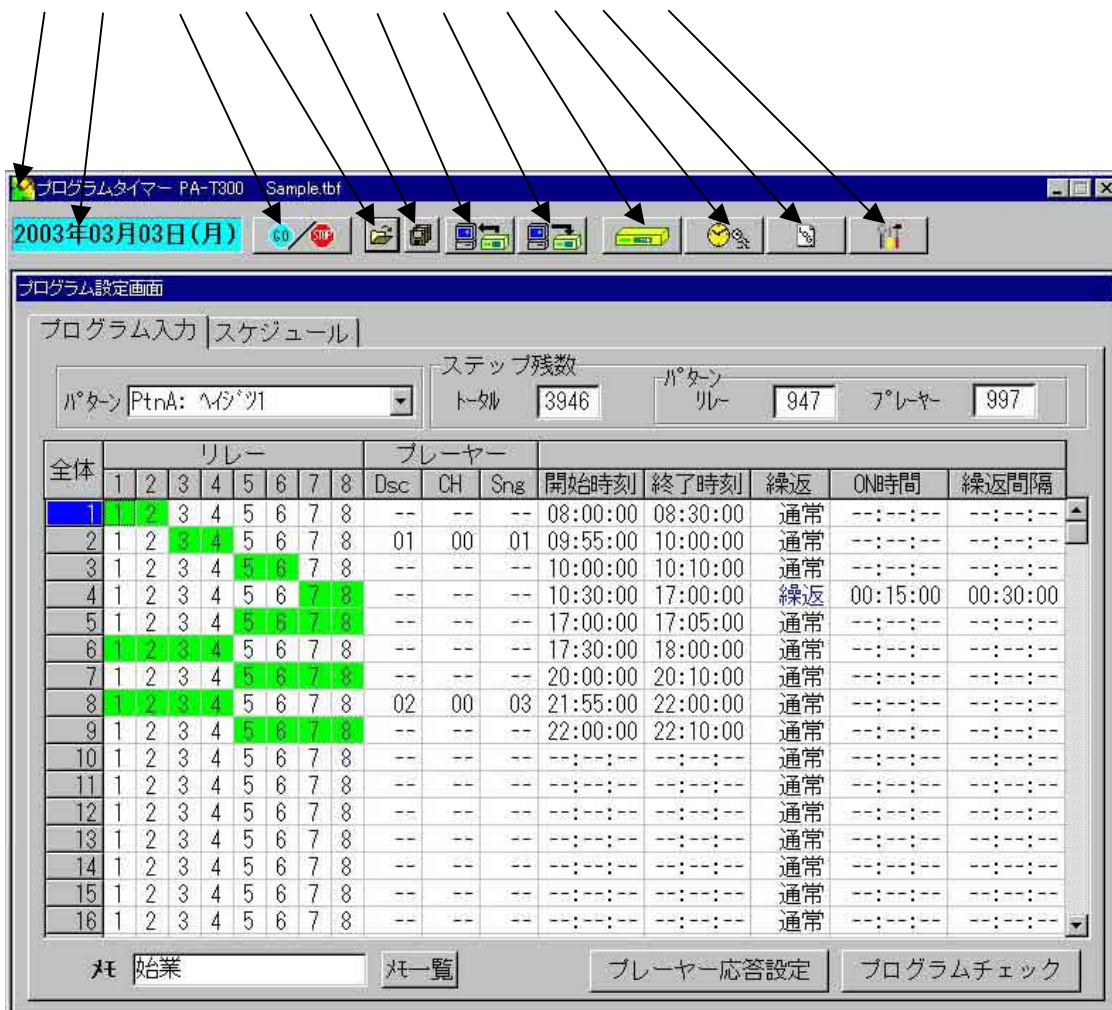
・ 本アプリケーションが初めて起動された場合には、システム設定画面を表示します。
・ 再起動の場合には前回閉じられた時点での画面表示状態がレジュームされます。

3-2. 本アプリケーションの終了

・ 共通画面左上のアイコンをクリックし [閉じる]を選択するか、右上の [×]ボタンをクリックすることで終了します。

・ データが保存または送信されていない状態で終了した場合には下記確認画面が表示されます。

「はい」を選択するとデータを破棄して終了します。「いいえ」を選択すると元の画面に戻ります。

4.画面の説明

4-1共通画面

Memo:

画面サイズは 800× 600の固定です。画面サイズを変更することはできません。
画面の移動は可能です。

① **タイトルバー**

開かれたファイル名が「プログラムタイマー　PA-T300」に続き、表示されます。

② **日付表示**

現在の日付を表示します。

③ **実行停止ボタン**

プログラムの実行状態を変更します。

④ **読み出しボタン**

ハードディスクに保存されたデータを読み出します。

⑤ **保存ボタン**

データをハードディスクに保存します。

⑥ **受信ボタン**

ユニットからデータを受信します。

⑦ **送信ボタン**

ユニットにデータを送信します。

⑧ **システム設定ボタン**

PA-T300の各種動作の設定を行う、システム設定画面を表示します。

⑨ **プログラム設定ボタン**

プログラムの設定を行う、プログラム設定画面を表示します。

⑩ **ログ表示ボタン**

ログを表示します。

⑪ **ユーティリティーボタン**

ユーティリティー画面を表示します。

Memo:

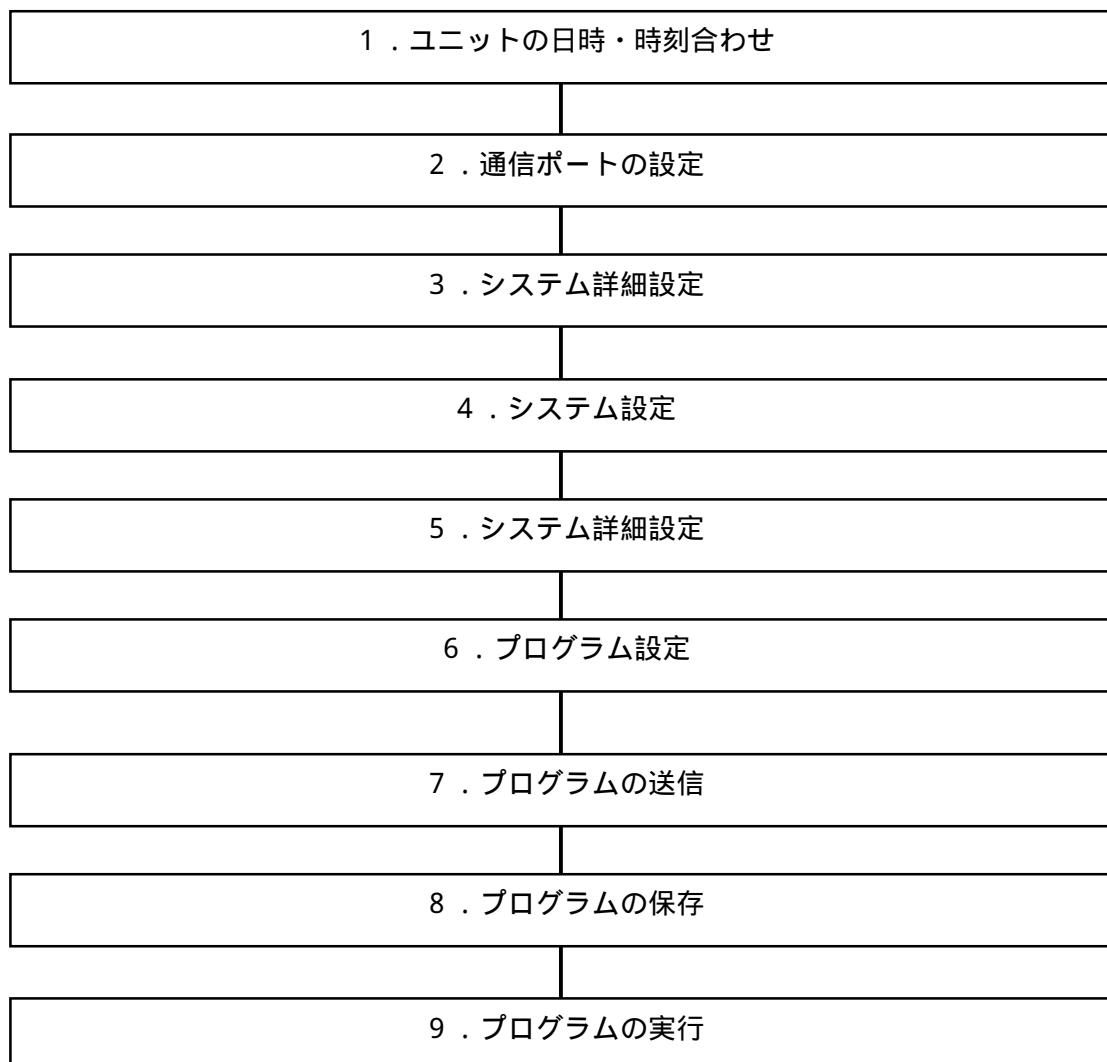
ini ファイルの設定値を変更することでアイコン表示を文字表示に変更することができます。

インストールディレクトリ (デフォルトは c:\Programfiles\Victor\PA-T300設定支援ソフト)下の PA-T300.iniの以下の部分を変更して下さい。

```
[OPTION]
PLAYER=4
RELAY_ONTIME=00:00:00
[GUI]
BUTTON_ICON=0
[COMM]
PORT=1
RETRY=2
TIMEOUT=2000
RETRY_PROG=2
TIMEOUT_PROG=12000
[RESSUME]
FILE_NAME=Sample.TBF
PTN_NO=0
```

0: アイコン表示
1: 文字表示

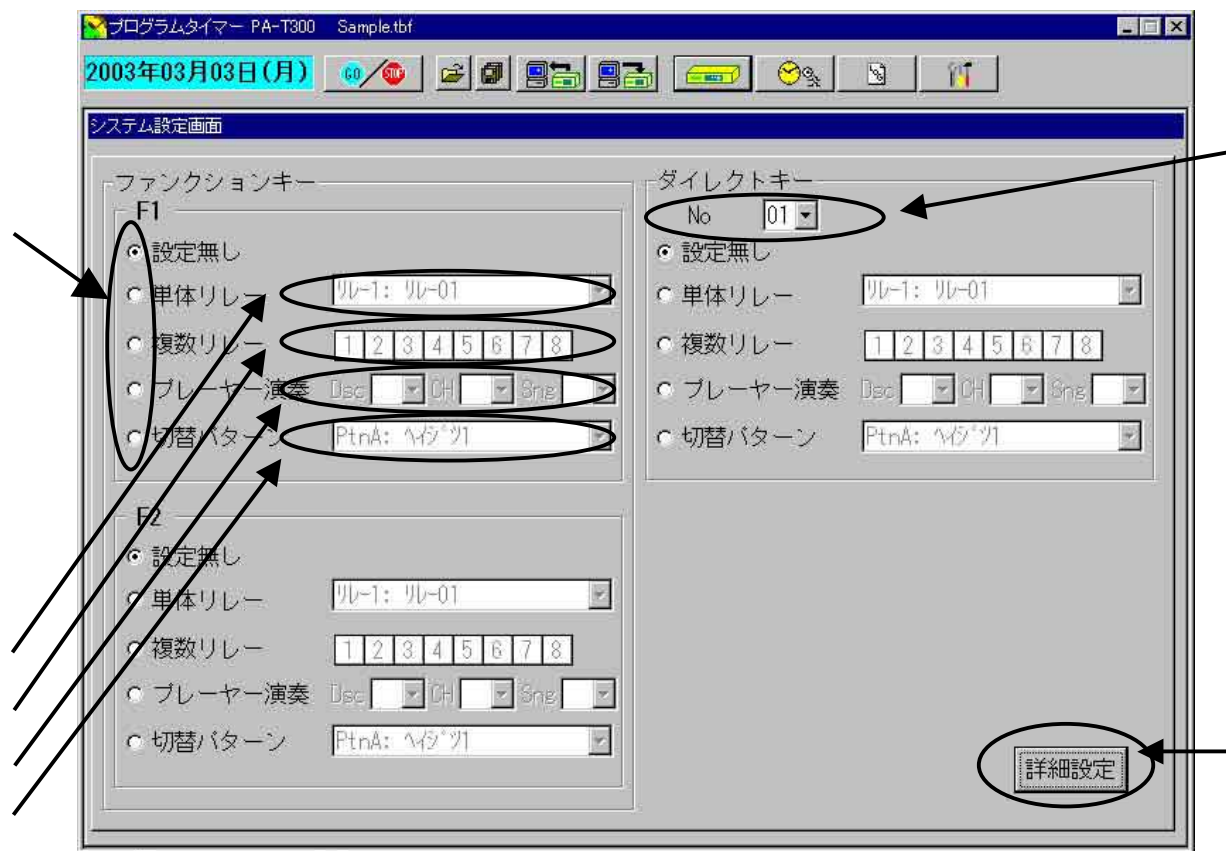
5.設定

・ ここでは、プログラムタイマー (PA-T300)設定支援アプリケーションを使用した具体的な設定方法を説明します。
・ 作業の流れの概要は以下の通りです。

5-1.システム設定

・ プログラムコントローラー (WZ-610)を動作させる基本的な環境を設定します。
・ ファンクションキーF１，F２およびダイレクトキー（1～１６）の動作を設定する“ システム設定 ” 画面と、動作環境等を設定する “ システム設定詳細 ” 画面があります。
・ 運用を始める前に、これらの設定を行って下さい。
・ システム設定画面は、共通部分の ” システム設定 ” ボタンをクリックして表示させて下さい。

ご注意：
　ご使用になる際は、必ず最初に 5-1-2 の “ システム詳細設定 ” において、“ プレーヤーの選択 ” を設定してください。
　プレーヤーが設定されていないと、プログラム入力の「プレーヤー」部の設定ができません。

5-1-1. システム設定

- ファンクションキーＦ１，Ｆ２およびダイレクトキー（１～１６）の動作を設定する“システム設定”画面と、動作環境等を設定する“システム設定詳細”画面があります。
- 各キーに設定できる機能は以下の通りです。
  - １）設定なし・・・・・・・・・・キーが操作されても何も反応しません。
  - ２）本体リレー・・・・・・・・・ひとつのリレーの ON/OFF操作ができます。
  - ３）複数リレー・・・・・・・・・複数のリレーの一括 ON/OFFができます。
  - ４）プレーヤー演奏・・・・・・指定した曲またはプログラムを開始します。
  - ５）切り替えパターン・・・・・指定したパターンを実行します。
- 設定できる機能はファンクションキーＦ１，Ｆ２およびダイレクトキー（１～１６）とも共通です。
- ダイレクトキーの 1～16の切り替えは、⑥ダイレクトキー番号選択部で行います。

①機能選択部

- ファンクションキーに割り当てる機能を選択します。
- 選択されている機能の横にある設定コンポーネントのみ有効になり、その他は淡色表示となり、操作不能になります。
- 機能選択は択一です。

②単体リレー選択部

- リレー1～8を選択します。
- この設定により、ユニット側では、ファンクションキーを押す毎にユニットのリレーの ON/OFFがトグル動作 (反転動作)します。

③複数リレー動作選択部

- リレー1～8の ON/OFFパターンを設定します。
- リレーの ON/OFF はボタンの上でダブルクリックして切り替えて下さい。緑色でリレーON,白色でリレーOFF です。

④プレーヤー選択部

- プレーヤーで再生する曲（プログラム）を指定します。
- ディスク番号 (Dsc)、チャンネル番号 (CH)、曲番号 (Sng)を設定します。
- 「システム詳細設定」により設定されている内容によって、入力が以下のように制限されます。

機種	Dsc	CH	Sng
なし	操作不可	操作不可	操作不可
MM-CD60	01～05	00:CD-DA 01～08:CD-BGM	01～99

⑤切り替えパターン選択部

- 差し替えるパターンを設定します。
- リストには登録されているパターンの名称が一覧表示されます。

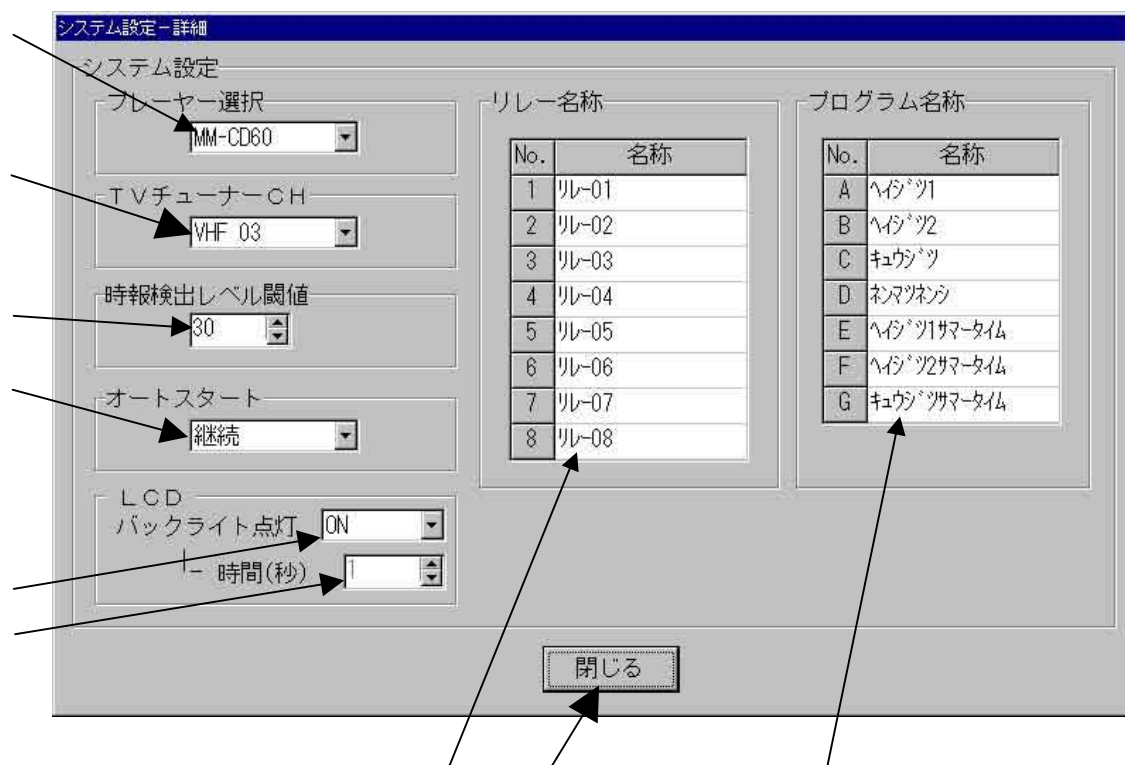
⑥ダイレクトキー番号選択部

- ダイレクトキー番号を選択します。
- 選択すると、各番号毎に記憶されている機能の設定および各機能の詳細な設定が表示されます。
- 各機能に関する設定方法および動作はファンクションキーと同じです。

⑦システム詳細設定画面表示ボタン

- システム詳細設定画面が表示されます。

5-1-2.システム詳細設定

・ プログラムタイマー (PA-T300)の動作環境等を設定します。
・ この画面はシステム設定画面の⑦詳細設定ボタンをクリックすることで表示されます。
・ 画面内で各設定部にマウスカーソルを当てると、そのパラメータの初期値が表示されます。

①プレーヤー選択部

- プログラムタイマー(PA-T300)で制御するプレーヤーの機種を設定します。
- 選択できるプレーヤーは以下の通りです。

＜＜なし＞＞
MM-CD60（CDミュージックマシーン）

ご注意：
・初期値は＜＜なし＞＞に設定されています。プレーヤーを接続する際は必ず、MM-CD60を選択してください。
・プレーヤーが選択されていないと、プログラム設定時、プレーヤーの設定ができません。

②ＴＶチューナーCH設定部

- 時刻合わせに使用するＴＶチューナーｃｈを設定します。
- 設定項目は、“VHF01”～“VHF12”、“UHF13”～“UHF62”です。
- 初期値は“VHF03”です。

③時報検出レベル閾値設定部

- 時報検出レベル閾値を設定します。
- 設定値は“20”～“1023”です。
- 初期値は“30”です。

④オートスタートモード設定部

- 電源投入時の動作を設定します。

継続　：電源切断時の状態に復帰します。
実行　：電源投入時、プログラム実行状態になります。
停止　：電源投入時、プログラム停止状態になります。

- 初期値は“継続”です。

⑤ＬＣＤバックライト点灯制御設定部

- ＬＣＤバックライト点灯の制御方法を設定します。

AUTO　：本体のキー操作後、点灯時間で指定された時間だけ点灯します。
ON　：常時点灯します。
OFF　：常時消灯します。

- 初期値は“ON”です。

⑥ＬＣＤバックライト点灯時間設定部

- ＬＣＤバックライト点灯時間(AUTO時)を設定します。秒単位(1～99秒)
- 初期値は“1”です。

⑦リレー名称入力部

- リレー1～8の名称を入力します。
- 入力できる文字は半角で 16文字まで入力できます。 17文字以上は切り落とされます。
- 入力可能な文字は下記の通りです。

半角カタカナ (大文字、小文字)，゛゜、。「」
アルファベット (大文字、小文字)
数字
記号 (：；＝？！@＼”＃＄%&’＊＋－，．＾／｜（）｛｝)

⑧ パターン名称入力部

- 7つのパターンの名称を表示・編集します。
- 入力できる文字は半角で 16文字まで入力できます。 17文字以上は切り落とされます。
- 入力可能な文字は下記の通りです。

半角カタカナ (大文字、小文字)，゛゜、。「」
アルファベット (大文字、小文字)
数字
記号 (：；＝？！@＼”＃＄%&’＊＋－，．＾／｜（）｛｝)

⑨閉じるボタン

本画面を閉じます。

5-2.各種操作

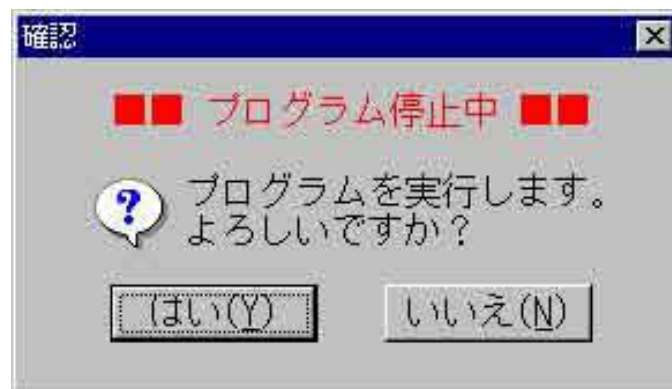
ここでは、プログラムタイマー (PA-T300)を動作させるための具体的なデータの読み出し・保存、送受信やその他の機能の説明を記述します。

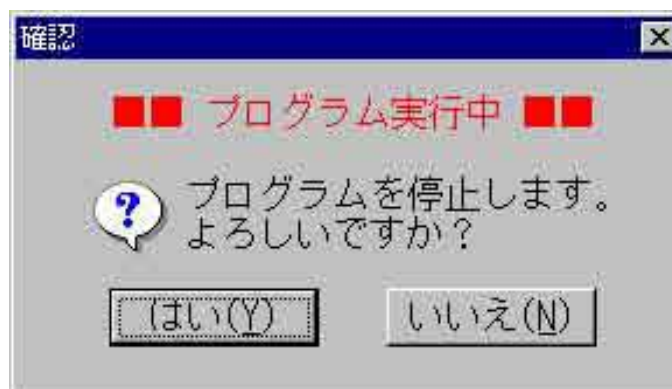
5-2-1.プログラムの実行と停止

プログラム実行停止ボタンをクリックすることで、プログラムの実行・停止を切り替えることができます。

実行停止ボタン

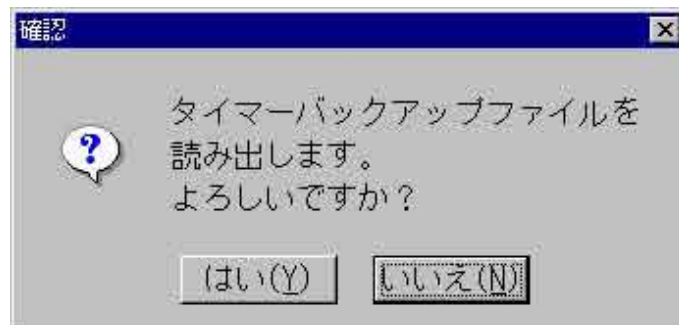
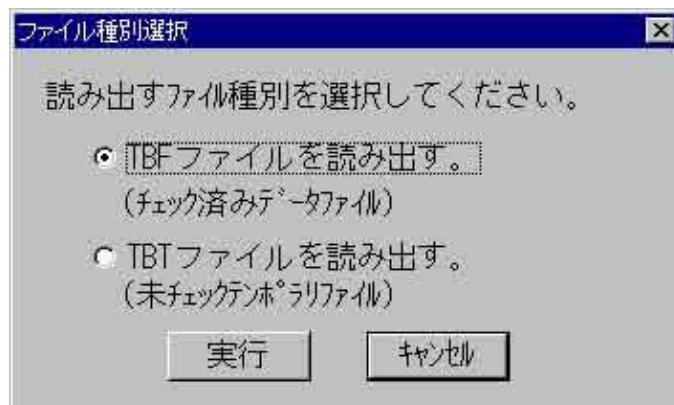
①プログラム停止状態からプログラム実行状態への変更

プログラム停止中に本ボタンをクリックすると ,下記確認画面が表示されます。
プログラム実行する場合には [はい (Y)]ボタンをクリックして下さい。

②プログラム実行状態からプログラム停止状態への変更

プログラム実行中に本ボタンをクリックすると ,下記確認画面が表示されます。
プログラムを停止する場合には [はい (Y)]ボタンをクリックして下さい。

5-2-2.ファイルの読み出し

- ハードディスク上のタイマーバックアップファイル（TBFファイル、TBTファイル）の読み出しを行います。

読み出しボタン

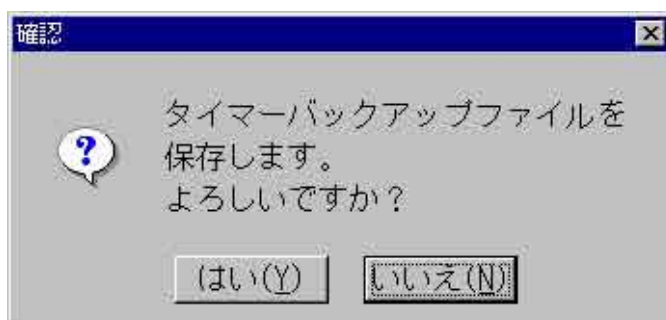
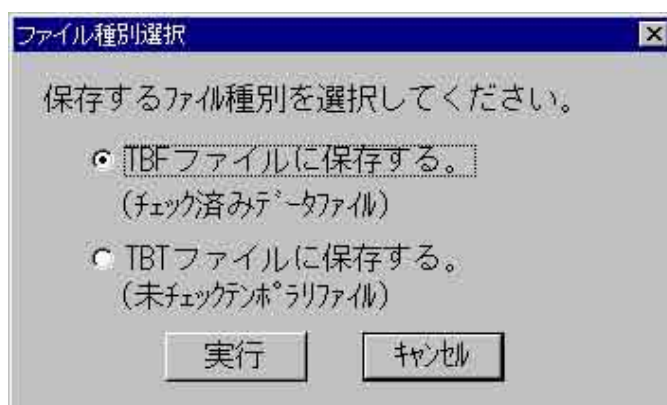
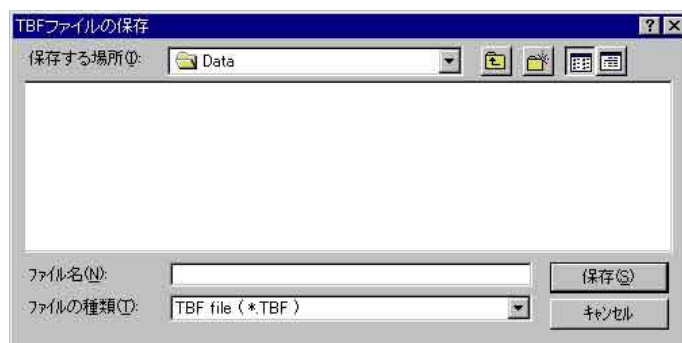
- 本ボタンクリック時、下記確認画面が表示されます。「はい (Y)」ボタンをクリックして下さい。

- ファイル種別選択画面が表示されますので、読み出すファイルタイプを選択し、「実行」ボタンをクリックして下さい。

- 「ファイルを開く」画面が表示されますので、読み出すファイル選択し、「開く (O)」ボタンをクリックして下さい。

・ファイル選択実行後、読み出しが完了すると下記メッセージが表示されます。

5-2-3.ファイルの保存

- ハードディスク上のタイマーバックアップファイル（TBFファイル、TBTファイル）の保存を行います。

保存ボタン

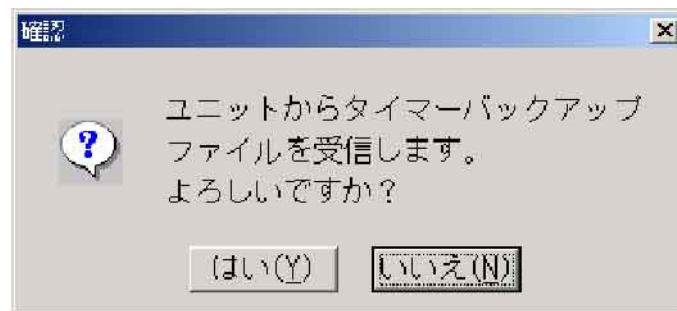
- 本ボタンクリック時、下記確認画面が表示されます。「はい (Y)」ボタンをクリックして下さい。

- ファイル種別選択画面が表示されますので、保存するファイルタイプを選択し、「実行」ボタンをクリックして下さい。

・「ファイルの保存」画面が表示されますので、保存するファイル名を入力し、「保存 (S)」ボタンをクリックして下さい。

・ファイル保存実行後、下記メッセージが表示されます。

Memo:

本アプリケーションで“ファイルの削除”の機能はありません。削除する場合には、エクスプローラー等でアプリケーションフォルダ下の DATA フォルダを開き、削除しください。

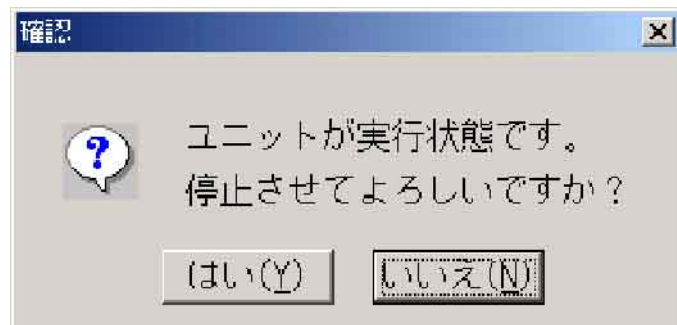
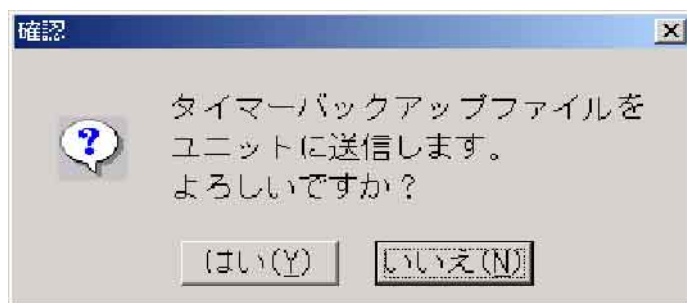
5-2-4.データの受信

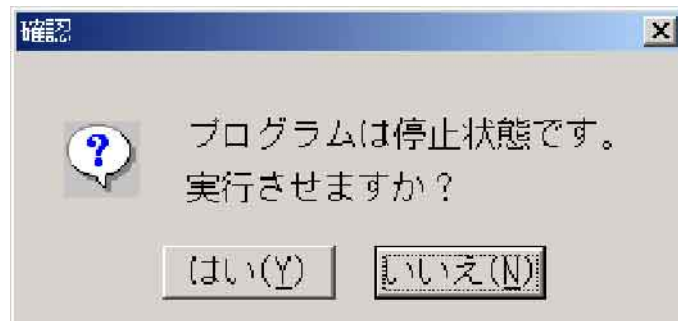
- プログラムタイマー（PA-T300）からタイマーバックアップファイルを受信します。

・受信ボタンをクリックすると、下記確認画面が表示されます。

- 「はい (Y)」ボタンをクリックすると受信が実行されます。
- 受信が完了すると下記画面が表示されます。

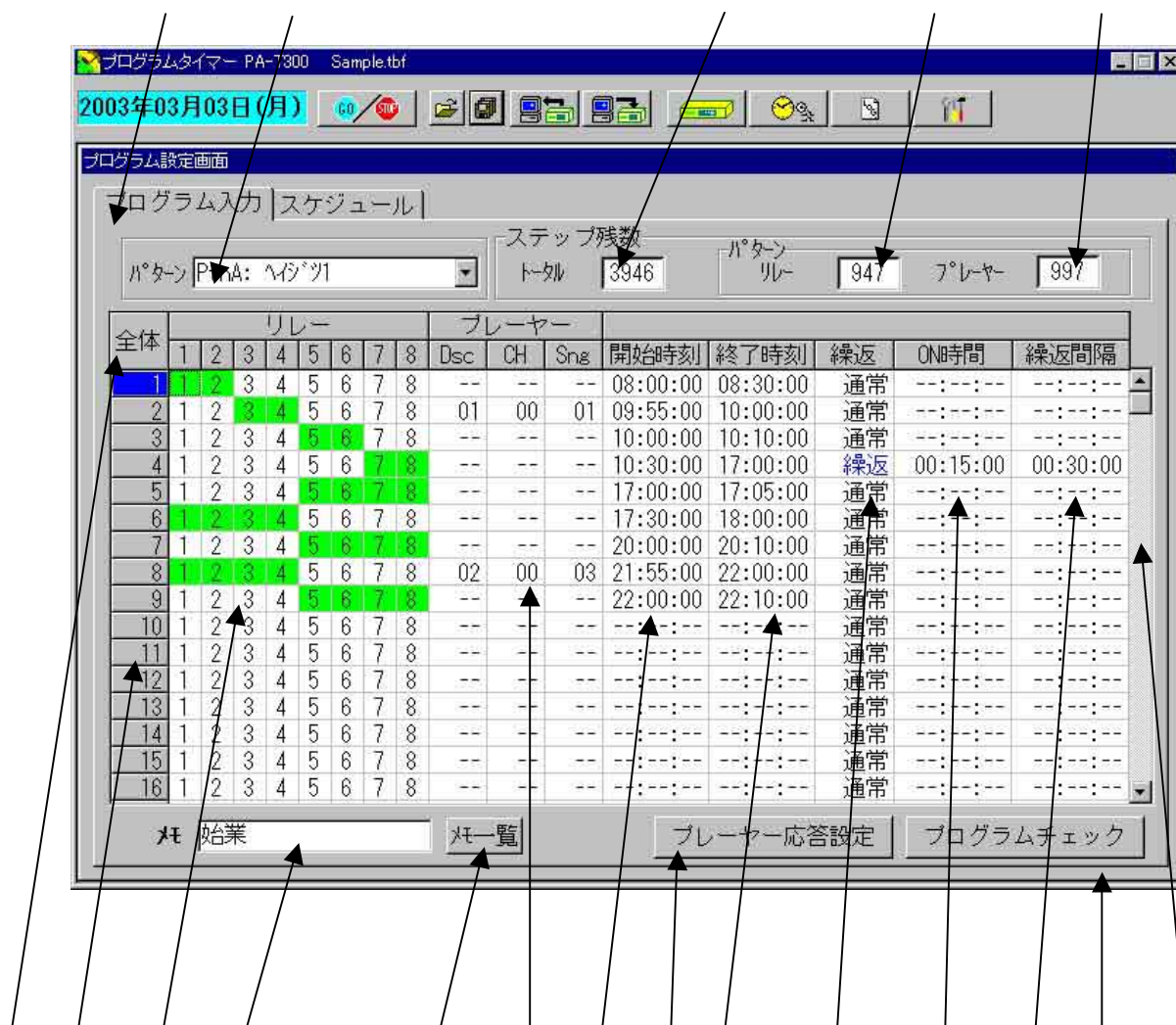
5-2-5.データの送信

- プログラムタイマー（PA-T300）にタイマーバックアップファイルを送信します。

- ユニットが実行中の場合には、まず、下記画面が表示されます。
- 送信するためには、プログラムを停止する必要があります。よろしければ「はい (Y)」をクリックしてください。
- ユニットが停止中の場合には、下記画面は表示されません。

- 下記確認画面が表示されます。「はい (Y)」をクリックしてください。

- 送信が完了すると、下記画面が表示されます。「OK」をクリックして本画面を閉じてください。

- **送信する前にプログラムを実行状態から停止させた場合には、下記画面が表示され、再度実行状態に戻すための確認画面が表示されます。**
- **プログラムを実行状態にするには「はい (Y)」をクリックしてください。**
- **実行状態にしない場合には、「いいえ (N)」をクリックして本画面を閉じてください。**

5-3.プログラム設定

5-3-1.プログラム設定

- プログラム設定画面は、プログラムタイマー（PA-T300)の各パターンの動作設定を行う画面です。
- 設定されたプログラムは、共通画面内の送信ボタンをクリックすることで PA-T300に送信されます。

①ページ切り替え部

- プログラム設定画面とスケジュール設定画面を切り替えます。

②パターン選択部

- 表示するパターンを選択します。▼ をクリックすることで表示される７つのパターンの中から編集する対象を選択してください。
- パターンを選択すると、当該パターンのデータが画面に表示されます。

③トータルステップ残数表示部

- トータルのステップ残数を表示します。
  *PA-T300ではトータル 4000ステップの設定が可能です。7つのパターンで設定されているステップ数を 4000から差し引いた数値が表示されます。
- トータルの 4000ステップを越えてのプログラム設定はできません。

④リレーステップ残数表示部

- パターン毎のリレープログラムステップ残数を表示します。
  *PA-T300ではパターン毎に最大 999ステップのリレー設定が可能です。表示中のパターンで設定されているステップ数を 999から差し引いた数値が表示されます。
- パターン単位での 999ステップを越えてのプログラム設定はできません。

⑤プレーヤーステップ残数表示部

- パターン毎のプレーヤープログラムステップ残数を表示します。
  *PA-T300ではパターン毎に最大 999ステップのプレーヤー設定が可能です。表示中のパターンで設定されているステップ数を 999から差し引いた数値が表示されます。
- パターン単位での 999ステップを越えてのプログラム設定はできません。

⑥全体ボタン

- 本ボタン上で左クリックすると、データエリア全体が選択状態 (青色背景色)になります。
- 本ボタン上で右クリックすると、全行が選択状態 (青色背景色)になり

クリア(T)	Ctrl+T
コピー(C)	Ctrl+C
貼り付け(V)	Ctrl+V
他パターンからのコピー	Ctrl+P

が表示されます。

- クリア・・・・選択されたパターンのプログラムを全て消去します。
- コピー・・・・プログラムを全てコピーします。
- 貼り付け・・・バッファにあるデータを貼り付けます。
- 他パターンからのコピー・・・選択すると下記画面が表示されます。
  コピー元のパターンが表示されますので
  ▼ をクリックすることで表示されるパターンの
  中からコピー元のパターンを選択してください。

⑦プログラム行番号ボタン

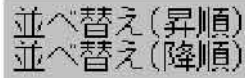
- プログラムの行番号欄です。
- 本ボタン上で左クリックすると、対象の行が選択状態 (青色背景色)になります。
- 本ボタン上で右クリックすると、対象の行が選択状態 (青色背景色)になり以下の画面が表示されます。

クリア・・・・・選択された行がクリアされます。
コピー・・・・・選択された行がバッファにコピーされます。
貼り付け・・・・選択された行にバッファの内容がコピーされます。
(バッファが空の場合、グレーアウトします)
挿入・・・・・・選択された位置に行が挿入されます。
削除・・・・・・選択された行が削除され、以降の行が上詰めされます。

- 行番号欄は単体選択、 SHIFTキーによる連続行選択、 CTRLキーによる複数行選択が可能です。
- 上記操作は選択されている行に対して実行されます。
- プログラムチェック時、エラーがある場合には該当行の本ボタンが赤色表示されます。

⑧リレー設定部

- ８つのリレーのメイク設定を行います。
- メイク設定時は背景色が緑色になります。
- メイク非設定時は背景色が白色になります。
- 初期値は全て白色(非設定)です。

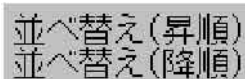
- 表題のリレー番号欄にカーソルを当てると、リレー名称がヒント表示されます。
- 表題の番号欄を右クリックすると、下記画面がPOPUPします。

並べ替え(昇順)
並べ替え(降順)

- 並べ替え(昇順)・・・ON/OFFの順でソートします。
- 並べ替え(降順)・・・OFF/ONの順でソートします。

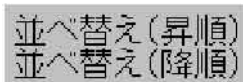
⑨プレーヤー設定部

- 再生するプレーヤーのディスク番号(Dsc)、チャンネル番号(CH)、曲番号(Sng)を設定します。
- 但し、プレーヤーが「なし」の設定になっている場合には、選択・編集できません。
- セルをダブルクリックすると、設定候補が表示されます。 ▼ ボタンをクリックし、番号を選択してください。
- ディスク番号(Dsc)、チャンネル番号(CH)、曲番号(Sng)の3つのセルは「システム設定画面」のプレーヤー選択により決定された機種によって、入力が以下のように制限されます。

機種	ディスク番号（Dsc）	チャンネル番号（CH）	曲番号（Sng）
なし	操作不可	操作不可	操作不可
MM-CD60	--：非設定 01～05	--：非設定 00:CD-DA 01～08:CD-BGM	--：非設定 01～99

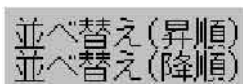
- 表題のDsc,CH,Sng欄を右クリックすると、下記画面がPOPUPします。

- 並べ替え(昇順)・・・小さい順でソートします。
- 並べ替え(降順)・・・大きい順でソートします。

⑩開始時刻設定部

・ 入力するプログラムの開始時刻を設定します。
・ クリックによってフォーカスがあたった状態、もしくはダブルクリックによって選択された状態で入力することができます。 “10”と入力するだけで、“10:00:00”が設定されます。
・ ユーティリティー機能で「入力支援」が設定されている場合、終了時刻が空欄の場合に限り、開始時刻が入力された時点で終了時刻が設定されます。
・ 表題の開始時刻欄を右クリックすると、下記画面がPOPUPします。

並べ替え(昇順)
並べ替え(降順)

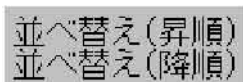
・並べ替え(昇順)・・・小さい順でソートします。
・並べ替え(降順)・・・大きい順でソートします。

⑪終了時刻設定部

・ 入力するプログラムの終了時刻を設定します。
・ クリックによってフォーカスがあたった状態、もしくはダブルクリックによって選択された状態で入力することができます。 “10”と入力するだけで、“10:00:00”が設定されます。
・ ユーティリティー機能で「入力支援」が設定されている場合、開始時刻が空欄の場合に限り、終了時刻が入力された時点で開始時刻が設定されます。
・ 表題の終了時刻欄を右クリックすると、下記画面がPOPUPします。

並べ替え(昇順)
並べ替え(降順)

・並べ替え(昇順)・・・小さい順でソートします。
・並べ替え(降順)・・・大きい順でソートします。

⑫繰り返しモード設定部

・ 入力したプログラムが通常プログラムか、繰返プログラムかを選択します。
・ セルをダブルクリックすると設定候補が表示されます。 ▼ ボタンをクリックし、”通常”または”繰返”のいずれかを選択してください。
・ “繰返”設定された場合には、文字色は青字で表示され、“通常”設定の場合には黒字で表示されます。
・ 表題の 繰返欄を右クリックすると、下記画面がPOPUPします。

並べ替え(昇順)
並べ替え(降順)

・並べ替え(昇順)・・・小さい順でソートします。
・並べ替え(降順)・・・大きい順でソートします。

ご注意

・繰り返し設定は、設定時のみ有効です。ファイルセーブしたものを読み出したり、ユニットに送信したものを受信した場合には、繰り返し設定は各時間帯に展開された状態で表示されます。
・プログラムステップ数のカウントも展開された個別のプログラムでカウントされます。

⑬ON 時間設定部

- 繰り返しモード設定部が”繰返”に設定されている場合のみ設定可能です。
- 繰り返しプログラムの ON時間を入力します。
- “通常”の場合、この欄をクリック、ダブルクリックしても、何も発生しません。

⑭繰り返し間隔設定部

- 繰り返しモード設定部が”繰返”に設定されている場合のみ設定可能です。
- 繰り返しプログラムの間隔時間を入力します。
- “通常”の場合、この欄をクリック、ダブルクリックしても、何も発生しません。

⑮スクロールバー

- 本画面は最大 16行の表示が可能です。
- スクロールバーを操作することで上下スクロールが可能になります。

⑯メモ欄

- 各プログラム行に対するコメントを入力します。
- 入力は半角２０文字（全角１０文字）までです。
- 行番号の選択状態に応じて、対応したコメントがメモ欄に表示されます。
- 複数行選択状態や全体選択状態では空欄になります。

⑰メモ一覧表示ボタン

- メモ一覧ボタンをクリックすることで、画面右側の ON時間欄、繰り返し間隔欄がメモ一欄表示に切り替わります。
- メモ一覧表示状態での編集も可能です。
- 再度メモ一覧ボタンをクリックすることで、メモ欄表示は ON時間欄、繰り返し間隔欄の表示に戻ります。

⑱プレーヤー応答設定ボタン

- 本ボタンをクリックするとプレーヤー応答設定画面が表示されます。
- プレーヤーが”なし”の場合には、プレーヤー応答設定画面は表示されますが設定することはできません。
- Dsc,CH,Sngを選択し、その曲がプレーヤー側で再生された場合に、連動させるリレーを設定します。
- 動作欄をダブルクリックすると、モード選択候補が表示されます。

選択できる動作は以下のとおりです。

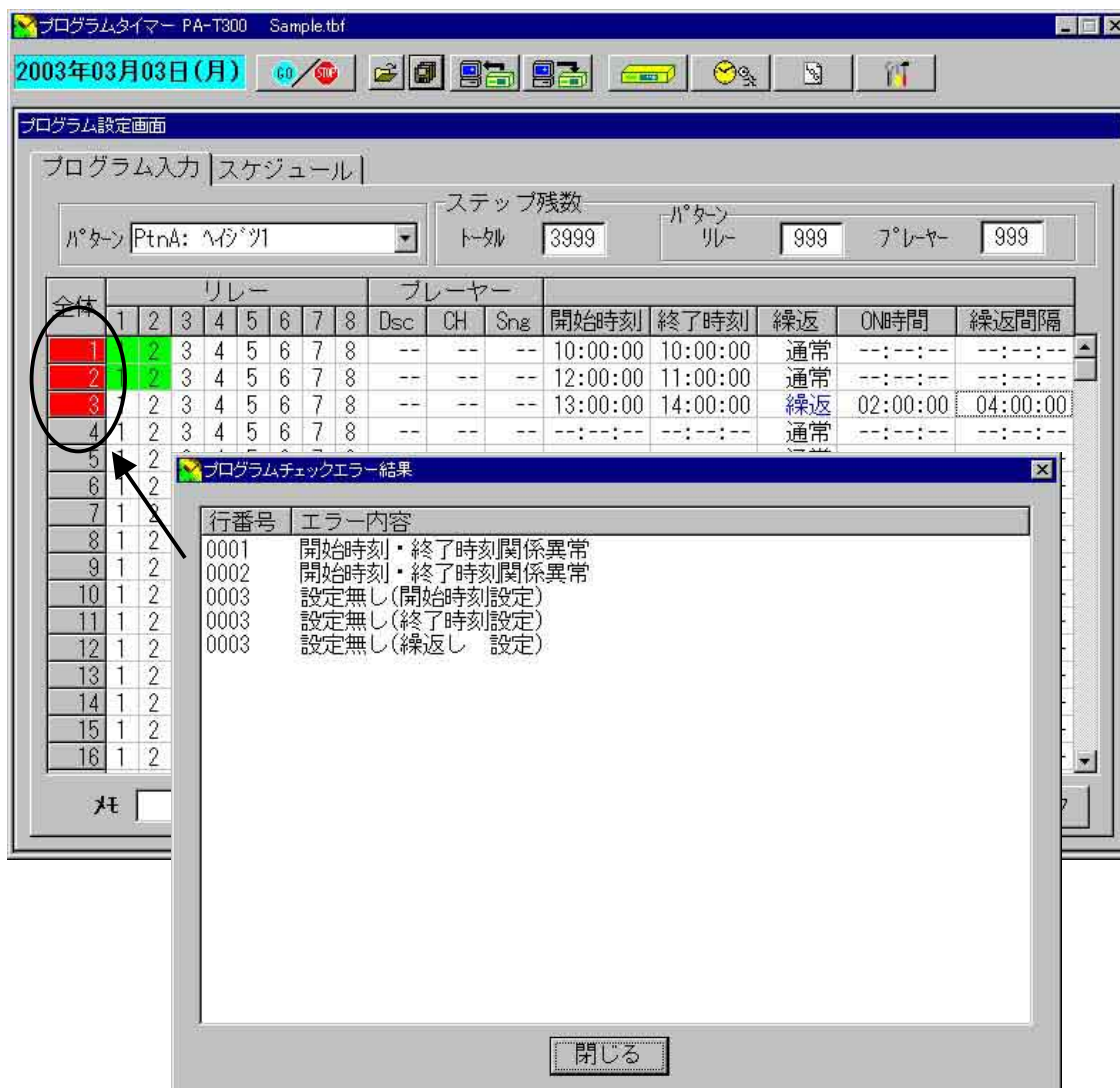
On　　：On
Off　　：Off
Tgl　　：現在の状態から反転動作
Make　：曲の演奏中のみリレーON

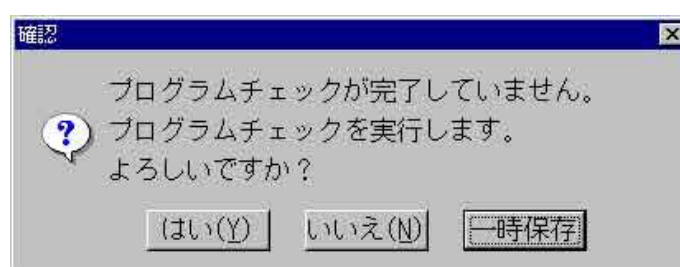
- 各プログラム毎、プログラム応答に設定できるのは 99ステップが最大です。それ以上は入力できません。このプログラムカウントは各パターンの 999ステップとは独立していますが、トータルの 4000ステップの制限はかかります。トータルのステップは、本画面が閉じられる際に更新されます。

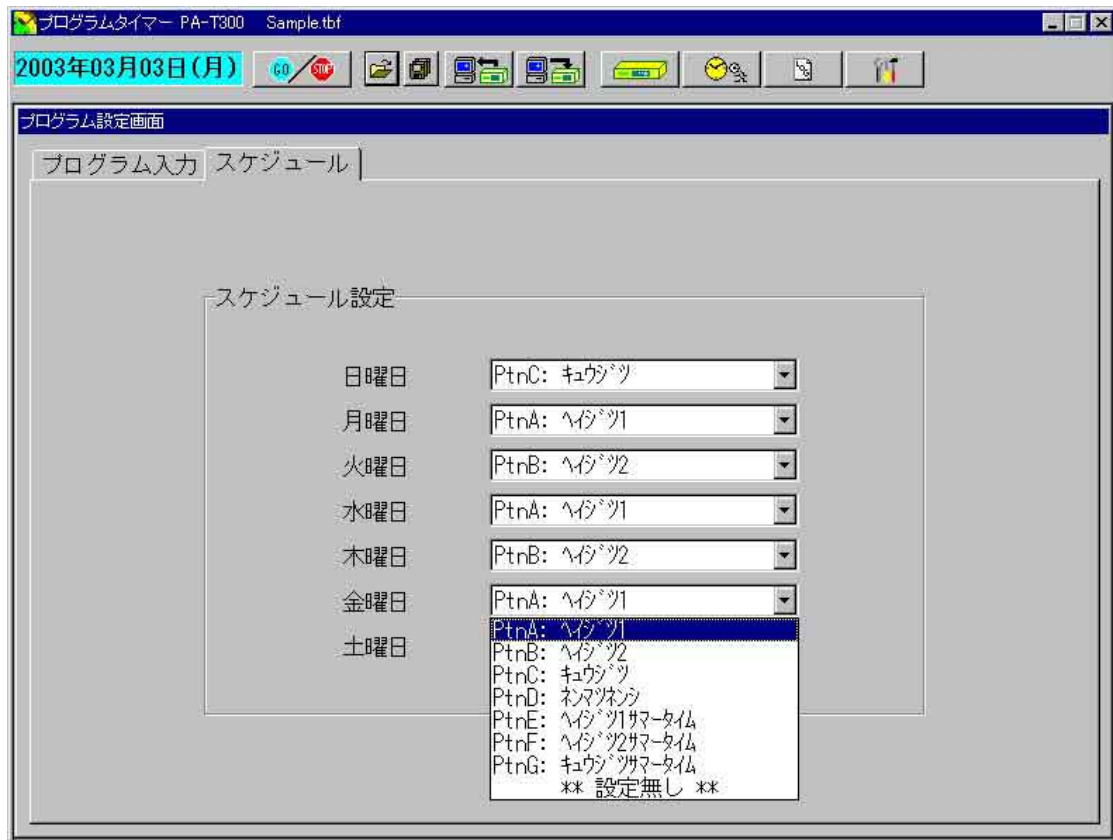
⑲プログラムチェックボタン

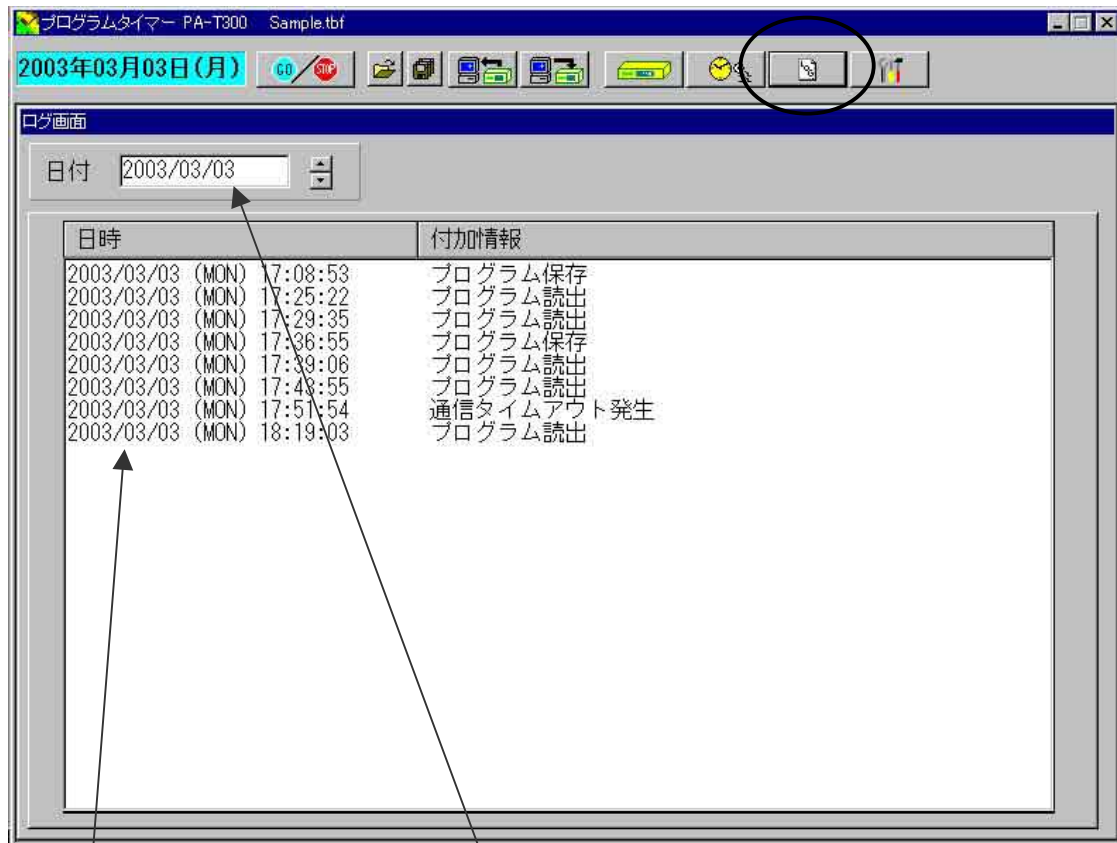
- プログラムチェックボタンをクリックすると、プログラムのエラーチェックが行われます。
- 本ボタンがクリックされると、以下に記述するエラーのチェックを実行します。

  開始時刻未入力　：開始時刻が設定されていない場合
  終了時刻未入力　：終了時刻が設定されていない場合
  プレーヤー終了時刻設定　：プレーヤーのみの設定において、終了時刻が設定されている場合
  開始時刻・終了時刻関係異常　：開始時刻が終了時刻と同じもしくはそれより前の場合
  24時間以上設定　：すべてのパターン内で開始時刻から終了時刻の時間幅が24時間を超える場合
  時刻重複設定　：同一時刻に同一のリレーもしくはプレーヤーに対して複数の設定がされている場合
  繰返 ON時間異常　：繰返 ON時間が繰り返し時間間隔よりも長い場合
  繰返時間間隔異常　：繰返時間間隔が開始時刻から終了時刻の時間よりも長い場合
  プレーヤー演奏間隔異常　：プレーヤーの設定間隔が 1分未満の場合
  設定無し　：リレーもプレーヤーも設定されていない場合。

- エラーがある場合には下記エラー結果画面を表示すると共に、プログラム設定画面内の該当エラー箇所の行番号欄が赤字表示になります。

- **エラーがない場合には、下記チェック完了画面が表示されます。**

- **エラーチェックが行われていない状態で他の画面に移行する操作が行われた場合には、下記画面が表示されます。「はい (Y)」をクリックするとエラーチェックが行われます。**
- **「一時保存」をクリックすると、エラーがある状態での保存画面（TBTファイルへの保存）が開かれます。TBTファイルに保存すると、他の画面への移行が可能になります。**

5-3-2.スケジュール設定

- 各曜日にパターンＡ～パターンＧのどのパターンを実行するかを設定します。
- 選択はパターンＡ～パターンＧと「** 設定なし　**」です。
- 「** 設定なし　**」を選択した場合、指定の曜日にスケジュールは実行されません。

5-4.ログ機能

- 本アプリケーション上の操作やプログラムタイマー(PA-T300)の制御結果の履歴を表示することができます。
- 共通画面のログアイコンをクリックすることで表示されます。

① ログ表示ウィンドウ

- 日時とイベント名を表示します。

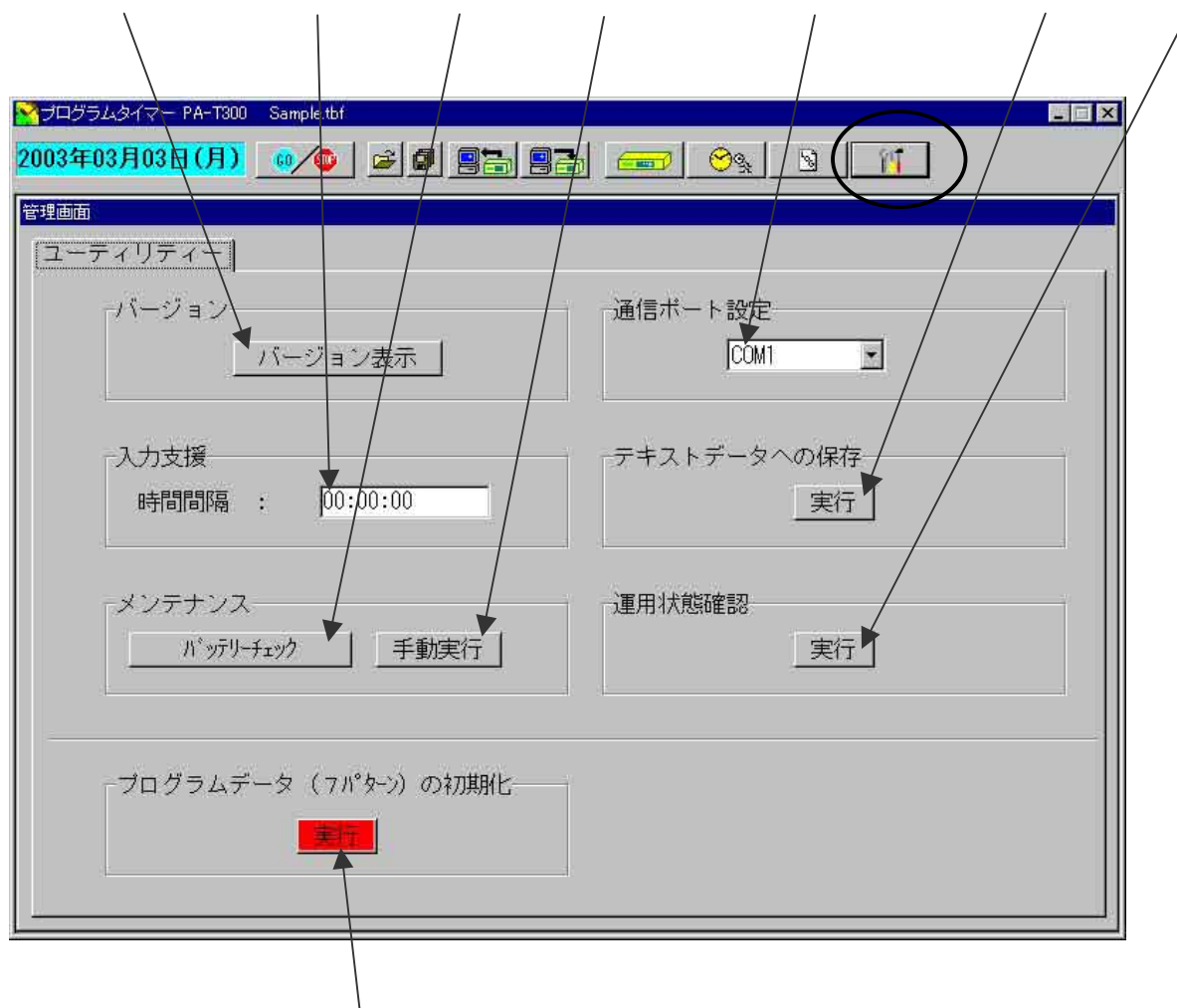
② 日付コントロール

- 表示するログの日付を指定します。
- 日付は直接入力または ▲ ▼ ボタンで指定します。
- ログ機能は設定支援アプリケーション側からの操作を記録するもので、ユニット側の操作、動作履歴を記録することは出来ません。
- ログファイルはアプリケーションフォルダ下の“LOG”フォルダ下にテキスト形式で保存されます。WINDOWS標準のテキストエディタでも開くことが出来ます。
- 本アプリケーションが稼働されなかった日付のログファイルは作成されません。
- ログに記述される時刻は絶対時刻です。

・ ログに記述される内容は以下のとおりです。

プログラム実行開始	プログラム実行された場合
プログラム実行停止	プログラム停止された場合
プログラム送信	パソコンから PA-T300にプログラムデータが送信された場合
プログラム受信	パソコンが PA-T300のプログラムデータを受信した場合
プログラム保存	プログラムを保存した場合
プログラム読出	プログラムを読み出した場合
プログラムリセット実行	プログラムリセットを実行した場合
バッテリーチェック結果	バッテリーチェックを実行した場合
手動実行	メンテナンス時、プレーヤーもしくはリレーが手動実行された場合
通信異常	通信異常が発生した場合
通信タイムアウト発生	通信タイムアウトが発生した場合

5-5ユーティリティー機能

- 共通画面のユーティリティーボタンをクリックすることで表示されます。
- アプリケーションのバージョン表示や設定データのテキストデータへの書き出しなどのユーティリティー機能があります。

5-5-1バージョン表示

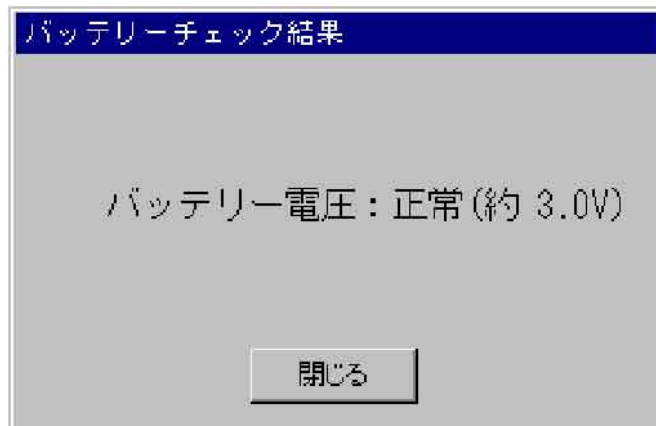
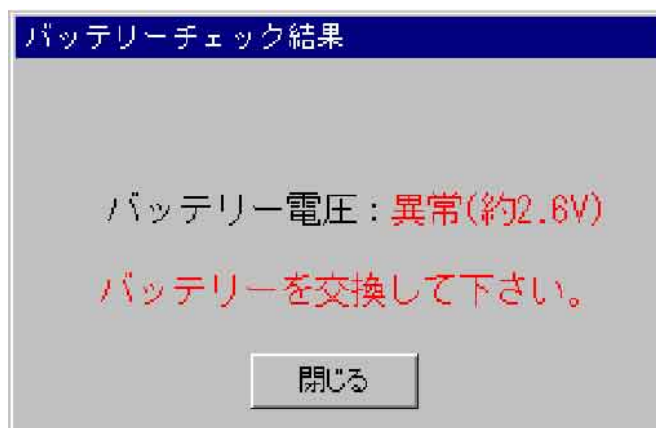
- プログラムタイマー (PA-T300)の本体ソフトウェアと本支援アプリケーションのバージョンを表示します。
- 本ボタンがクリックされるとプログラムタイマー (PA-T300)の本体と通信を行い、バージョン情報を取得し、下記の画面を表示します。
- プログラムタイマー (PA-T300)の本体ソフトウェアが接続されていない場合には、通信異常となり、支援アプリケーションのバージョンのみを表示します。

5-5-2入力支援

- プログラムの入力を簡単にする為の時間設定を行います。
- ここで " 00:05:00" (5分)が設定された場合、開始時刻を入力すると終了時刻に開始時刻 +5分の時刻が自動的に入力されます。
- 初期値は " 00:00:00" であり、この場合は、入力支援は機能しません。
- " 00:00:01" 以上が入力された場合、入力支援が有効になるものとします。
- " 24:00:00" 以上の入力は 24:00:00に丸められます。

5-5-3.メンテナンス（バッテリーチェック）

- バッテリーチェックボタンが押下されると、ユニットと通信を行い、バッテリー電圧値を取得します。
- 2.7V以上を正常、2.7V未満を異常とし結果を表示します。

正常画面

異常画面

5-5-4.メンテナンス（手動実行）

- 「手動実行」ボタンをクリックすると下記画面が表示されます。

- ダブルクリックによって、リレー1～8を単体でON/OFFできます。緑色でON 白色でOFFです。
- リレー設定は即時反映されます。

- 再生するプレーヤーのディスク番号(Dsc)、チャンネル番号(CH)、曲番号(Sng)を設定します。
- 但し、プレーヤーが「なし」の設定になっている場合には、選択・編集できません。
- セルをダブルクリックすると、設定候補が表示されます。 ▼ ボタンをクリックし、番号を選択してください。
- ディスク番号(Dsc)、チャンネル番号(CH)、曲番号(Sng)の3つのセルは「システム設定画面」のプレーヤー選択により決定された機種によって、入力が以下のように制限されます。

機種	Dsk	CH	Sng
なし	操作不可	操作不可	操作不可
MM-CD60	01～05	00:CD-DA 01～08:CD-BGM	01～99

ご注意

- **メンテナンスの手動実行において、リレー操作を行った場合、メンテナンス終了時には、すべてのリレーがOFFになります。**
- **次に実行されるプログラムから動作が開始され、その時点でリレーも設定された状態になります。**

5-5-5通信ポート設定

- プログラムタイマー(PA-T300)と通信を行うシリアルポートを設定します。
- 指定するポートを選択して下さい。
- 通信ポートは COM1～COM4が選択でき、初期値は COM1です。

5-5-6.テキストデータへの保存

- 本アプリケーション上で設定されているデータをテキスト保存することができます。
- 「実行」ボタンをクリックすると、下記画面が POPUPします。
- セーブするファイル名をテキストボックスに入力します。
- テキストファイルは インストールフォルダ下の TEXTフォルダ内に作成されます。

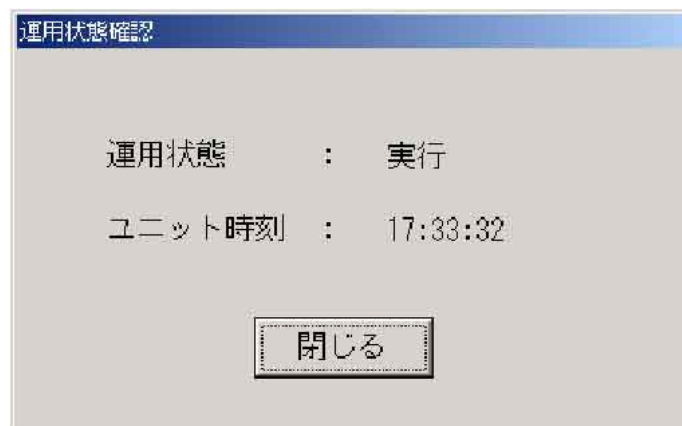
・「全データ内容の保存」・・・・・システム設定データに加え、７つのパターンデータがテキスト保存されます。
・「プログラム内容の保存」・・・・現在表示中のパターンのデータが保存されます。

- 保存したテキストファイルは、エディタやワープロソフトで開くことができます。

ご注意

- Windows付属のメモ帳では、改ページの機能が無効になるため、印刷時、ブロック毎の改ページは行われません。
- Microsoft Wordにて本ファイルを開いた場合、各データの位置がずれて表示・印字されることがあります。このような場合は、文書全体を選択し、「書式」→「段落」の「体裁」タブの“文字幅と間隔”の項目の「日本語と英字の間隔を自動調整する」と「日本語と数字の間隔を自動調整する」のチェックをはずしてください。行数が１ページにデータが入りきらないときには、文書全体を選択し、「書式」→「段落」の「インデントと行間隔」タブの“間隔”の項目の“行間”および“間隔”を調整してください。

5-5-7 運用状態確認

- ユニットの運用状態を確認します。
- 「実行」ボタンを押すことで、ユニットの状態確認を実行します。
- プログラムタイマー (PA-T300)と通信を行い、運用状態 (実行 /停止)とユニットの時刻を取得し、表示します。

5-5-8.プログラムデータ (7パターン)の初期化

- PA-T300に設定されている 7つのプログラムを初期化します。
- 時報検知レベル等のシステムの情報はクリアされません。
- クリアされるデータは以下の通りです。
  1. リレー名称
  2. プログラム (パターン)名称
  3. スケジュール
  4. 機能キー応答プログラム
  5. ダイレクトキー応答プログラム
  6. リレー制御プログラム
  7. プレーヤー演奏プログラム
  8. プレーヤー応答プログラム

ご注意：
プログラム実行中は、データクリアできません。実行中に実行すると通信エラーが発生します。
プログラムを停止状態にしてから実行してください。

6.トラブルシューティング

以下に考えられるトラブルとその対策を記述します。

障害内容	考えられる要因と対策
プレーヤーの曲が選択できない。	プレーヤーが選択されていません。MM-CD60をシステム設定詳細画面で選択してください。
繰り返し設定が保存されない。	繰り返し設定は、プログラム設定時のみ有効な表示機能です。保存して読み出したり、送信して受信した状態では繰り返しプログラムは個別のプログラムに展開されます。
プログラムの順番が変わってしまう。	保存して読み出したり、送信して受信した状態では開始時間で昇順ソートされた状態で表示されます。
アプリケーションが起動しない。	必要なファイルが削除もしく破損しています。再インストールしてください。
通信異常が出る。	・通信ポートが正しく設定されているか確認してください。 ・ RS-232Cのケーブルは正しく接続されていますか？接続は本体の前面右側のコネクタです。（背面のコネクタは MM-CD60との接続用です。） ・正しいケーブルを使用していますか？クロスケーブルを使用してください。